

福井大学学術交流協定校への派遣留学（交換留学） 月例報告書（12月）

留学先：マカオ大学

氏名：松岡ななみ

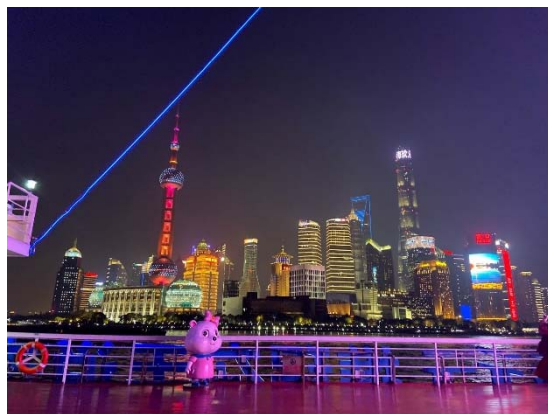
こんにちは。とうとう、最後の月例報告書となりました。今回は、12月にあった事、そして最後にマカオでの1年間の留学を終えて、思ったことを書きたいと思います。

12月に入ると、マカオ大学では前期の授業が終わりテスト期間に入りますが、私は今期、二つしか授業を取っておらず、そんなに難しい授業ではなかったため、ほとんどテスト勉強をしませんでした。では、何をやっていたかと言うと、マカオでやり残したことや改めて観光に行ったり、上海に旅行に行ったりしていました。

・上海旅行

先月、中国語検定を受けに上海に行きましたが、留学中最後の旅行としてもう一度上海に行きました。今回は、上海の近くにある浙江大学に留学中の友達と日本から来た友達と一緒に上海を観光しました。上海観光はもちろん楽しかったですが、久しぶりに友達に会えたことがとても嬉しかったです。

マカオに留学して少したってから思っていたことがあったのですが、今回の上海旅行で改めてそれを感じました。それは、自分の中の中国のイメージが大きく変わったということです。マカオに留学に来る前の私の中の中国に対するイメージは、日本と比べて発展しておらず、正直、薄汚い場所が多く、さらに英語がほとんど通じないため中国語が話せないという旅行が難しいというものでした。しかし、マカオに留学し、英語が通じない環境で過ごしたことにより、その環境に慣れたことに加え、中国本土へ行く機会もあり、実際に中国の空気に触れて自分が持っていた中国へのイメージがただのイメージだったことが分かりました。自分のイメージと同じ部分はもちろんありましたが、それ以上に大都市である上海だけでなく、日本にいたころには聞いたことのない名前の都市でも日本よりもっと発展していることが分かりました。私が中高生の頃は、中国は発展途上国であると習ってきましたが、もう中国は発展途上国ではないということを直に感じました。また、自分の中国語のスキルはまだまだ意思疎通ができる程ではありませんが、一年間中国語を学んで実際に触れる機会がたくさんあるなかで生活したので、中国語しか通じない場所に行くことも抵抗がなくなってきました。まだ、中国を旅行する中で困ることはたくさんありますが、今までにはなか



った、中国中を旅したいという思いが出てきました。また、より中国語をもっと勉強しようという気持ちも強くなりました。このような思いを感じた留学中最後の旅行、上海旅行でした。

・最後のマカオ

留学最後の一週間、何をしようかと考えましたが、体調をくずしたこともあり、特に特別なことをするのもやめて普通に過ごしました。お土産を買いがてら最後の観光を少しして、最後にずっと行こうとして行っていなかった Venetian のカジノを見に行ってきました。マカオにいる間にカジノでお金を賭けることはしませんでした。いくつかのカジノをまわって今の日本では経験できないことを経験できたと思います。お土産を買いに行くことで、一年間のマカオ生活が終わることを実感し始め、少し寂しい気持ちにもなりましたが、それに加えマカオは良いところだということを感じることもできました。

この最後の月例報告書で一年間の留学を終えて、思ったことや学んだことを書こうと思いましたが、今までの月例報告書で少しずつ書いてきたことが私が学んだことなので書くことはやめます。留学に対する目標は人それぞれだと思うし、その目標を達成することが大事だと思います。しかし、私は目標をすべて達成することが出来ませんでした。行ってしまえば 2 割も達成できなかったのではないかと思います。だからと言って、後悔はありません。目標とは違えど、本当にたくさんのことを学び、これからの目標も見つけることができました。この一文だけだと大した成果など無いように思えるかもしれませんが、言葉では伝えられないようなことを得られた留学生活でした。これから留学に行くことを考えている方にはぜひ行って、自分自身で感じてもらいたいです。

最後に、この語彙力も文章力もない私の月例報告書を読んでくださりありがとうございました。留学を通して改めて周りの人たちの支えがあり、自分があるのだと感ずることができました。これからの生活にもいろんな人たちの支えが必要であり、この一年間で学んだことで私自身もいろんな人の支えになれたり、自分自身の成長に活かしたら良いと思います。

